

4 実 態

(1) 校区の概要

麦島校区は、日本三急流の一つ球磨川の本流・支流（前川）にはさまれた堆積地を本体とし、東部は砂礫層、中部は微高地、西部は干拓地である。これらの成立年代は中世以後と考えられている。麦島の名義については、肥後国誌に、麦が多かったのでこの名が付いたと記されている。球磨川の流す土砂と人々の手直しや干拓によってできた地区である。

豊臣秀吉は天正15年(1587)、島津への出兵を終えて九州を統一した後、肥後南半を小西行長に与えたので、八代地方はその支配下となった。行長はその本拠を宇土に置き、八代には、小西行重をやって治めさせた。この時、従来の山城（やましる）であった古麓城を廃して、麦島に平城（ひらじろ）を築いて南方の護りとした。現在の古城町を中心として北東部は迎町、南東部は千反町にわたる部分である。慶長5年(1600)、関ヶ原の戦いで小西行長は滅亡し、八代は加藤清正の支配下になった。その後、慶長17年(1612)、加藤右馬允正方が、阿蘇内の牧城から麦島城の城代としてやってきた。

元和5年(1619)3月17日、八代地方に大地震が起こり、麦島城が壊れたので正方は松江と徳淵の二村に麦島城の石垣を利用して新しい八代城を元和8年につくりあげた。これが現在の八代城跡である。麦島城跡は、石垣が持ち去られたので天守閣の城跡の一部が残っているのみである。

麦島城築城から八代城築城までの30年間は、麦島は八代の政治経済文化の中心であった。また、八代の発展に忘れてはならない加藤清正との縁も深いのである。

江戸時代、明治・大正と時は流れ、昭和5年に待望の本格的鉄橋、植柳橋が開通することにより、麦島と植柳と八代町は陸続きとなり旭光を浴びることになった。昭和15年9月

1日に八代町、太田郷町、植柳村、松高村が合併して八代市が誕生した。このことにより、植柳は八代市の主要な部分になった。戦後の高度成長により、昭和30頃より人口が増えはじめ、住宅地として注目されるようになった。昭和39年には、国道3号線の改修により白鷺橋、夕葉橋、それに新前川橋も架けられ、麦島校区は交通の要路となるとともに、住宅地としてもさらに脚光を浴びることになった。

農業中心だったこの地区が住宅地化するとともに、地域外からの転入者が多くなり、郷土意識や人間関係が希薄になり、昔の風土が失われてきた。人口の推移は左のとおりである。近年、校区の世帯数の変化は小さいが、人口及び一世帯あたりの人数、児童数は減少傾向にある。

本校の歴史は、以下のように明治8年まで遡ることができる。

明治8年(1875)4月 植柳小学校として創立

明治25年(1892)4月 麦島尋常小学校として独立する

大正10年(1921)4月 高等科を併置する

昭和9年(1934)4月 植柳小学校へ合併

昭和58年(1983)4月 麦島小学校として独立
現在に至る

麦島校区の世帯数・人口・児童数の推移

年月	世帯数	人口	一世帯当りの人数	児童数
9.3	3,306	9,068	2.77	591
10.3	3,315	8,988	2.74	598
11.3	3,323	8,940	2.71	596
12.3	3,326	8,941	2.69	596
13.3	3,375	8,975	2.65	584
14.3	3,397	8,864	2.60	564
15.4	3,418	8,790	2.57	536
16.4	3,398	8,629	2.53	501
17.4	3,426	8,616	2.51	486
18.4	3,418	8,485	2.48	476
19.4	3,428	8,427	2.45	473
20.4	3,374	8,378	2.48	467
21.4	3,515	8,395	2.39	452
22.4	3,501	8,331	2.38	460
23.4	3,529	8,319	2.36	445
24.4	3,571	8,307	2.33	446
25.4	3,611	8,344	2.31	433
26.4	3,612	8,300	2.30	440
27.4	3,601	8,211	2.28	446
28.4	3,610	8,176	2.26	438
29.4	3,609	8,082	2.24	438
30.4	3,616	8,070	2.23	438
31.4	3,608	7,873	2.18	420